

東舞子

2015/10/30 (11月号)

神戸市立東舞子小学校

平成27年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

「園山洋史先生」

校門横の金木犀が秋の深まりを辺りに告げています。いよいよ音楽会の季節が近づいてきました。

この時期、学校中に♪が飛び回り、子供たちは真剣に練習に取り組んでいます。そんな子供たちの頑張りを応援するべく、先日大先輩の園山洋史先生が来校されました。園山洋史先生は、30数年前に本校の教師であった方です。本校の音楽会のラストソング『心の賛歌』の作者でもあります。既に10年前にご退職されていますが、もしかすると、保護者の方の中に教え子である方もいらっしゃるかもしれません。昨年来、いつか園山先生に来校していただき、今も歌い継がれている『心の賛歌』を聴いていただきたいと熱望していたのですが、やっと実現しました。5・6年生の音楽会の見合い学習の日に合わせて、園山先生に来ていただきました。5・6年生の演奏を聴いていただき、6年生が残って先生のお話を聴きました。6年生は30年以上歌い継がれてきた『心の賛歌』を園山先生に聞いていただきました。先生はじつと歌声に耳を傾け、目頭を熱くされている様子でした。「素晴らしい。世界に通用するぐらいの力を君たちは持っているよ。」と褒めていただき、『心の賛歌』の歌詞についても語っていただきました。「この歌詞には、私の気持ちや解釈もあるけれど、まず自分なりに考えてほしい。自分の解釈が人と違っていてもいいんだよ。」と、先生の思いを一方向的に押し付けることなく、一人ひとりの思いを受け止めてお話をされました。それでも、子供たちには30数年前、園山先生が東舞子の子供たちを、心の底から大切に思いつくられた歌詞のひとつひとつに先生の思いが込められていると感じ取ってくれたことと思います。先生は最後に、自らお得意のオカリナの演奏を披露してくださいました。オリジナルCDを出し、コンサートをされる腕前です。『千の風になって』を演奏していただきました。温かく柔らかなオカリナの音色が広がる音楽ホール(体育館)に、ちょうど窓から爽やかな風が吹き込み、時間の流れが交錯するような不思議な感覚を覚えました。何十年の間、この場所で大勢の子供たちが、それぞれの思いを込めて歌ってきたのでしょう。オカリナの演奏を聴く6年生の子供たちの優しい笑顔を見ているととても幸せな気持ちになりました。本当に素敵な時間が流れました。これからも、必ずや『心の賛歌』は歌い継がれていくことでしょう。園山先生が、来校されて開口一番おっしゃった言葉「この学校は本当にいい学校で、大好きなんです。」6年生のみんな、いやこの学校で学ぶすべての子供たちがそんな気持ちになってほしいと改めて思いました。

園山先生、本当にありがとうございました。感謝！！



■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 垂れ幕と袖幕の新調“HIGAMAI WALKER” ㊹

PTA 総会の折に学校からお願いいたしました体育館舞台の垂れ幕と袖幕の新調が整いました。校章の刺繍は京都でないとできないということで、時間がかかりました。写真では、分かりにくいと思いますが、校章が輝いており、きっと音楽会のステージも映えることでしょう。音楽会の折は、子供たちとともに舞台の幕にもご注目ください。感謝！

校長 小野晃弘

